

令和 7 年度第 4 回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：令和 7 年 12 月 1 日（月）

午後 1 時 30 分から

場所：弥富市役所 3 階 大会議室

○議 事

1.開会

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none">定刻となった。ただいまから、令和 7 年度第 4 回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。市民協働課の藤井である。本日もよろしくお願ひする。本日の協議会は委員総数 21 名のうち、20 名の出席をいただいており、協議会規約第 9 条第 1 項に定める半数以上の定数に達しているため、会議が成立していることを報告する。また、当協議会は協議会規約第 9 条第 3 項により、会議を公開とする。協議会進行の改善や記録のため、IC レコーダー等での音声録音、動画撮影をさせていただく。ご了承願いたい。
---------------	---

2.あいさつ

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none">最初に、安藤市長よりご挨拶申し上げる。
安藤市長	<ul style="list-style-type: none">本日は第 4 回目となる地域公共交通活性化協議会にお忙しい中ご出席賜り感謝する。今インフルエンザと百日咳がはやっている。小中学校ではクラス閉鎖も行われる状況である。手洗い、うがい、ワクチン接種など、感染防止にお努めいただき、ご自愛いただきたい。本日は、たくさんの議題を出させていただいている。10 月 1 日からは新しく公共交通の実証実験を行っている。これまでのきんちゃんバスの運行ルートの見直しを行い、また運休している地区もある。新たに始めた実験で、チョイソコやとみデマンド型乗合バスを運行している。こちらはこれまで話を聞いていると大変な予約件数が入り、予約が成立しないときもある。半年ぐらいたったところでしっかりと検証し、次の半年に向けて 1 年間の実験を進めてまいりたい。最終形としては、チョイソコやとみ、また一部バスは残るかもしれないが、進めたいと思っている。今日は皆様方のご意見をいただきながら会議が実りあるものとなることをお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただく。本日はよろしくお願ひする。

3.資料確認

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none">本日の会議資料の確認を事務局よりお願いする。
事務局 (村上)	<ul style="list-style-type: none">会議資料の確認をする。事前にお送りした資料として、

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1：令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業 事業（自己）評価について ・資料 2：令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業 事業（自己）評価資料 ・資料 3：弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスについて ・資料 4：きんちゃんバスのルート・ダイヤ・停留所の変更について（案） ・資料 5：チョイソコやとみの運行評価について ・資料 6：弥富市地域公共交通計画の見直しについて ・資料 7：第 2 次弥富市地域公共交通計画（案） ・参考資料 1：第 2 次弥富市地域公共交通計画（案）に対する意見の対応表 ・参考資料 2：利用者実態調査結果 ・また、本日机の上に、配席表、当日配布資料として、資料 2 の差替え版、資料 4 の差替え版、参考資料 1 の差替え版をお配りしている。 ・当日の差し替え資料で、資料 2 は 4 ページから差し替える形になっている。資料 4 は全部差し替えである。不足はないか。 ・これより座長の山崎委員に交代する。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指名に預かった公益財団法人豊田都市交通研究所の山崎である。 ・インフルエンザがすごくはやっている。マスクをしている。 ・チョイソコの運行が始まった。バスではない形での輸送が今いろいろなところでやられている。超高齢社会で、より細かな少量の輸送に対応していく必要がある。聞いたところ、結構利用されている印象である。報告を楽しみにしたい。

4.議題

(1) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業 事業（自己）評価について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業（自己）評価についてということで、補助に関する年度が令和 7 年 9 月までが令和 7 年度ということであるので、そこまでの状況がどうであったかということを、補助金でいただくからには自分で自己評価して国に報告していくということである。その資料の説明となる。事務局から説明をお願いする。
事務局 (村上)	<p>○資料 1 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業 事業（自己）評価についてであるが、まず評価の目的・意義について資料 1 をもとにご説明する。 ・人口減少や高齢化で利用者が減少し、事業者単独での運行維持が困難な路線を存続させ、住民の通勤・通学、通院、買い物など日常生活に必要な移動手段を確保することを目的として、本市では弥富市地域公共交通計画に基づき、毎年「生活交通確保維持改善計画」を策定し、地域内フイーダー系統であるきんちゃんバスに対して国から補助を受けている。 ・参考までに令和 7 年度の「生活交通確保維持改善計画」を 2 ページ以降についているのでご確認いただきたい。 ・中部運輸局管内ではこの「生活交通確保維持改善計画」を含む地域公共

	<p>交通確保維持改善事業に関する事業評価を毎年実施することとなっており、地域公共交通活性化協議会で自己評価結果を審議した上で、令和8年1月16日までに中部運輸局に提出する必要があることから、今回の協議会で審議する運びとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> なお、地域公共交通活性化協議会の自己評価に基づく中部運輸局による二次評価結果は令和8年3月頃に通知があり、令和8年度の第1回の協議会で報告する予定である。 これまでも議論を重ね、本日の議題（5）に挙がっている弥富市地域公共交通計画とは関連するものの、別物であり、国から補助を受けている公共交通に関する事業評価である。 この前提の上で、資料2をもとに自己評価結果を説明させていただく。 <p>○資料2 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常に内容が多くなっているため、一部説明を割愛しながらの説明となる。ご了承いただきたい。 1から6ページまでは案となっており、差し替えがある。 7ページ、ここからはきんちゃんバス等の弥富市内の事業について、国に提出する様式になっている。 評価対象事業名は、令和7年度地域公共交通確保維持事業のうち、陸上交通（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）である。 地域の交通の目指す姿は、地域公共交通計画に基づき、「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」としている。 8ページ、事業評価についてとなる。 9ページは弥富市地域公共交通計画の評価等結果となる。 事業評価と弥富市地域公共交通計画の評価等は10ページ以降で説明をさせていただく。 10ページ以降は中部運輸局の様式である。 11ページ、「1. 協議会等が目指す地域公共交通の姿」であるが、地域の特性や背景のほか、弥富市地域公共交通計画の期間や方針を記載している。 次に12ページ、「2. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組」について、主な取り組み内容として大きく4つ掲げている。1つ目は「本格導入を見据えたデマンド型交通の実証実験の開始」、2つ目は「きんちゃんバスルート・ダイヤの見直しとわかりやすい時刻表の作成・配布」、3つ目は「福祉施策と連携した買い物支援サービスの展開」、4つ目は「コミュニティバス運賃助成定期券交付事業の継続実施」としている。 「本格導入を見据えたデマンド型交通の実証実験の開始」についてはデマンド型交通「チョイソコやとみ」の写真を載せる予定である。 また、その他主な取り組みとして「75歳以上の方と運転免許返納者を対象としたゴールドバス」「65歳以上へのシルバーパスの販売」「福祉タクシー料金助成事業の実施」も挙げている。
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・次に 13 ページ、「3. 計画の目標の達成状況とその理由についての考察」について、ここでは、弥富市地域公共交通計画に掲げた 5 つの目標値に対する達成状況について整理している。 ・「目標①：使いやすい地域公共交通網の形成による利用者数の維持・増加」については未達成である。 ・令和 7 年度の実績値は令和 6 年 10 月から令和 7 年 9 月の実績をもとに算出している。 ・今後の方針は、「使いやすい公共交通網の形成に向けた本格的な再編検討」、「継続的な利用促進活動の推進と公共交通施策の周知」としている。 ・14 ページ目、「目標②：利用促進策の展開等による新規利用者の獲得」について、本格運行を見据えたデマンド型交通の実証実験に伴い、きんちゃんバスの運行ルート・ダイヤを大幅に縮小したこと受け、きんちゃんバスの無料お試し乗車券の配布を実施しなかったため、新規利用者が把握できておらず未達成となっている。 ・ただ、実証運行をしているデマンド型交通における無料お試し乗車券の配布を実施した。 ・今後の方針は、「本格導入を見据えて実証運行をしているデマンド型交通における無料お試し乗車券の検討」、「運賃が無料の利用者に対する利用促進策の検討・実施」、「意見交換会や各種団体の会合、その他市民の方々が集まる場等における公共交通施策の周知活動展開」としている。 ・「目標③：利用者 1 人当たり運行経費の削減による持続性の確保」、「目標④：収支率の改善による持続性の確保」についてはそれぞれ未達成である。 ・その要因として「人件費の増加に伴う運行経費の増加と利用者の伸び悩み」を挙げている。 ・今後の方針は、「現在の運行経費の維持を基本とした再編を検討」、「継続的な利用促進活動の推進と公共交通施策の周知」としている。 ・「目標⑤：住民意見交換会の実施による地域公共交通を創り、支える環境の形成」については達成している。 ・今後の方針は、「きんちゃんバスやデマンド型交通の乗り方や公共交通の置かれている状況等を知るための勉強会を実施する」としている。 ・15 ページ、「4. 計画目標の達成に向けた今後の取組方針の作成」について、課題である「利用者の増加」、「1 人あたり運行経費の削減」、「収支率の向上」を踏まえ、「各地域の需要や特性に合った、バスに限らない公共交通の運行も見据えた公共交通網の検討」や「利便性を確保しつつ、効率的な運行が可能な運行体系の検討」、「継続的な利用促進と公共交通施策の周知による利用者を確保」をしていく必要があると考えている。 ・また、対応方針として「使いやすい公共交通網の形成に向けた本格的な再編検討」と「継続的な利用促進活動の推進と公共交通施策の周知」の 2 つを挙げている。 ・16 ページ、17 ページは「5. 直近の二次評価の活用・対応状況」である。 ・二次評価とは、中部運輸局で毎年実施されている第三者評価委員会のこ

	<p>とである。昨年度の第4回協議会でも報告させていただいたが、弥富市には前々回は4つ、前回は6つの意見をいただいていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次評価結果の詳細や対応方針の説明は割愛する。 ・18ページの「6. 計画・評価の推進体制」について、P D C Aの推進体制と直近1年間の協議会のスケジュールと主な協議・報告事項を記載している。 ・推進体制については、今後も引き続き、関連し実施する調査等の結果や事業進捗状況等を基に評価するとともに、令和7年度で弥富市地域公共交通計画の目標年次を迎えることから、新計画である「第2次弥富市地域公共交通計画」の策定を進め、次年度以降は新計画に基づく事業推進や評価を進めていくこととしている。 ・以上で説明を終わる。ご審議のほど、よろしくお願ひする。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの説明について、ご意見、ご質問があればお願ひする。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1の7ページ、21、利用者等の意見の反映状況について、「活性化協議会の場で検討協議した結果を踏まえて本計画を策定した」とあるが、こんな難しいことを言わなくても、規約によると、この計画は協議することになっているので、「活性化協議会の場で協議し、本計画を策定した」としたほうが規約に沿っているのではないか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の使い方として、「検討協議」ではなく、「協議し」のほうがよいのではないかということである。 ・ほかにはよろしいか。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1の1ページ、フィーダー系の補助の金額は毎年変わるものか。何かの評価で変わるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・変わる。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年や6年の実績はわかるか。変わるとすると、何によって変わるものか。 ・例えば資料2で評価があって、未達成、達成とあるが、未達成だと評価が下がるとか、そういうことなのか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・支局から補足いただけるか。
原田委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助を受けた路線については必ず毎年評価しないといけないとなっている。この評価した結果、計画の目標が未達成であっても、それによって補助を減額するということはない。次の計画目標にきちんと反映していただきたいということになる。目標が未達だから補助が減る制度にはなっていない。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにはいかがか。よろしいか。 ・確かに未達が結構あって、気になるところではあるが、社会全体の状況から考えて、どうあがいても達成は無理だろうという指標がそのまま残っている。そこを今後どうしていくかということもきちんと考えていかなければいけない。よろしいだろうか。 ・それでは、ご審議いただきたい。令和7年度地域公共交通確保維持改善事業、事業（自己）評価について、事務局の案を承認いただければ、今後整理して、運輸支局に提出していくことになる。 ・こちらの案を承認いただける方は挙手をお願いする。

	(賛成者挙手)
	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様に賛成いただいたので承認された。事務局で手続きを進めていただきたい。

4.議題

(2) 弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスについて

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題2、弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスについて、こちらも審議事項である。資料3の説明を事務局からお願ひする。
事務局 (村上)	<p>○資料3 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスについて、資料3をもとに説明する。 ・1ページ、本市では令和3年4月1日より、弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスを実施している。 ・本サービスの実施に伴い、道路運送法79条に規定する福祉有償運送（買い物支援サービス）の同法第79条の6、及び同法施行規則第51条の10の規定に基づく登録をしているが、令和8年3月末までが有効期間となっている。 ・有効期間の更新の登録に際し、①福祉輸送の必要性、②運送の区域、③旅客から收受する対価、④旅客の範囲、⑤更新登録時期について地域公共交通活性化協議会で合意が必要となるため、本協議会で審議する経緯となっている。 ・サービスの位置づけについて、ささえあいセンター買い物支援サービスは、上記の施行規則第49条の2の福祉有償運送にあたる。また、対象者の範囲は、身体障害者、精神障害者、知的障害者、要介護認定者、要支援認定者、基本チェックリスト該当者となっている。 ・2ページ、①福祉輸送の必要性について、ページの真ん中に弥富市における要介護者、身体障害者など移動制約者の状況を記載しているが、一番下の表の移動制約者の前回更新時からの変化を見ると、対象者の合計が増加している状況である。 ・3ページ、こちらは弥富市における公共交通機関などの状況で、市内に鉄道やバス、デマンド型交通、タクシーなど運行しているが、唯一のドア・ツー・ドアの輸送機関であるタクシーにおいて、一般タクシーは名古屋近鉄タクシーのみで、介護タクシー事業者としてしんご福祉タクシーと弥栄福祉輸送、福祉タクシーうたたね、ODE KAKEタクシーがある状況である。 ・今説明した状況等を踏まえると、今後も買い物支援サービスで移動手段を確保することで、介護や支援の必要な高齢者や障害のある方の社会参加の機会の増加や、その家族の負担軽減にもつながると考えられ、このことから今後も本市において、ささえあい支援サービス、福祉輸送サービスは必要であると考えている。 ・以上となる。ご審議をお願いする。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえあいセンターは包括支援の一環としてヘルパーが対象者を乗せてお店まで連れていき買い物をしていただくという形の福祉有償運送である。改めて届をし直すということである。

	<ul style="list-style-type: none"> ・何かご意見、ご質問があればお願ひする。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・3ページの2の介護タクシーに支払う年間の金額はわかるか。4ページを見ると、運送の対価が30分150円で、それ以外は200円となっている。合計の利用者が19人である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー事業が現状ここにあるということを示しているだけで、この事業はタクシー事業者がやっている事業ではない。輸送をお願いしているものではない。ささえあいセンターのヘルパーが車で支援が必要な人をお店まで乗せていくという有料サービスである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の12ページにある福祉施策と連携した介護支援サービスの展開ということで、ここが市の主催で行っているささえあいセンターによる買い物が難しい方の支援をしていくという形の事業を展開している形になる。その部分の有効期間が令和8年3月末で切れるため、更新をしていきたいということが今回議題として上げた趣旨である。
安藤市長	<ul style="list-style-type: none"> ・確認だが、このサービスは買い物に限るのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。
安藤市長	<ul style="list-style-type: none"> ・1人では行けない方がということで、介護や支援が必要な方のサービスということであるが、こういう方々はご家族の都合で、例えば病院にも1人で行けないと思う。このサービスが拡張できれば、そういう面でもささえあいセンターの業務としてやっていただくとともに市民サービスの向上につながるのではないか。 ・利用者がそんなに多くないので、そういったサービスもできるのではないかと思う。8年3月末で見直しをかけるということであれば、まだ間に合うような気がする。ぜひそれも入れていただきたい。要望する。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局、いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市長からご要望があったが、その部分については各事業体と協議しながら進めたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部だとタクシー事業と競合するところがあり、目的を絞ったサービスということでスタートしたわけだが、対象者を絞ってタクシーとの競合がなければよい。サービスの幅を広げた途端、みんなが使い始めてしまうと、今もかなり対象者は絞られているので、そのあたりしっかり協議していただきたい。 ・ほかにいかがか。よろしいか。 ・特に変更なく、今までどおりの形で届出を出していくということでおろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市長の話もあるので、検討したい。・
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日ここで確定ではなく、審議事項になっている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまでも今回の区分については3月末で期限が決まっているので、まず買い物に限定した部分を皆さんでご審議をいただきたい。 ・通院等についてのサービス拡大については、タクシーの方々と話し合いをして検討したい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していくということで、ご審議いただきたい。 ・弥富市ささいあいセンター買い物支援サービスに関して、賛成の方は挙手をお願いする。

(賛成者挙手)

	<ul style="list-style-type: none"> 皆様に賛成いただいた。対象者を拡大していくかということは今後検討していくということで、ささえあいセンターの支援サービスは引き続き続けていくということで、事務局で事務手続きをお願いする。
--	--

4.議題

(3) きんちゃんバスのダイヤ・停留所及び路線の変更について（案）

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 3つ目の議題も審議事項となっている。きんちゃんバスのダイヤ・停留所及び路線の変更について、資料4の説明をお願いする。
事務局 (村上)	<p>○資料4説明</p> <ul style="list-style-type: none"> きんちゃんバスのルート・ダイヤ・停留所の変更（案）について、本日配布した資料4の差替え版をもとにご説明する。 1ページ、現在、デマンド型交通に関する実証実験をきんちゃんバスのルート再編と合わせて実施しており、きんちゃんバスの通勤・通学需要の変化の有無を確認・検証しながら検討を進めている。 一定の通学需要が見込めることから、現在令和8年9月30日まで運休させている「境」バス停において、運休期間を令和8年3月31日までに変更し、令和8年4月1日からルート・ダイヤを見直したいと考えている。 また、鍋田支所が令和7年度末をもって閉館することを受け、令和8年4月1日からバス停名称を「稻吉」に変更する予定である。 なお、運賃の変更はない。 境バス停はもともと設置していた位置から変わりはない。1ページ下部に示しているとおりとなる。 令和8年4月1日からの運行ルート案は2ページ、現時点でのダイヤ案は3ページのとおりで、境バス停を設置したことによる時刻の修正を行っている。 「境」バス停以外の現在運休しているバス停は引き続き令和8年9月30日まで運休とする。 今後の流れとして、本日の協議会後、意見聴取を行った上で、運賃部会によって審議する。 以上で、説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 南部ルートかつて使っていたバス停を1つ、ここまで延ばすということである。またバス停名称の変更の2点である。ご意見、ご質問があればお願いする。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 差し替え版の上から4行目、「一定の通学需要が見込めることから」とあるが、これは何をもとに見込んでいるのか。 一番最初の南部のルートから1回目に4つぐらい追加されている。今回また1つ追加されるが、その都度要求があつてこのようにされていると思うが、最初に練られた状況から、アンケートを取られるとか、そういう情報があつて変えられるものなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 高校に進学している方たちの無料乗車券の定期を発行している実績や、地域説明会の際に、高校進学に当たってきんちゃんバスを使って弥富駅まで出るという情報を入手した。複数名の利用が今後発生するという状況があつたため、改めてこここの部分を復活させていただいた。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 地域から実際に利用する人がいるという情報があつてということである。

田口委員 (公募委員)	・そういう情報を伝えると変えていただけるということなのか。
山崎議長	・単純にそういう話ではない。何でも言えば対応してくれるわけではない。対応していたらきりがない。事務局の中で十分に議論し、検討している話だと思う。そこをしっかりとやっているのかということは、この会議の場でそういう言い方は控えていただきたい。
田口委員 (公募委員)	・バス停を変更するたびに1回1回やらなければいけない。
山崎議長	・事務局が検討した案が出てきて、ここで皆さんと協議して決めていく形である。
田口委員 (公募委員)	・1回1回やらなければいけないので、逆に言うと、きんちゃんバスの停留所を、ここはもうちょっと欲しいというのが案として出ればというか、そういうのはどこに持つていいのか。
山崎議長	・担当課に持つていっていただければ、そこで検討して、この会議に諮るかどうかを検討する。担当課の中で、これはないだろうというものはここには上がってこない。
委員	・通学だから。
田口委員 (公募委員)	・通学というと、高校生は3年間しかいない。
山崎議長	・高校生の通学でバスの利用はすごく大事である。3年ごとに変えていくこともある。それも対応するべきだと思う。 ・ほかにはよろしいだろうか。 ・バス停名称の変更はよいか。稻吉は地名か。
事務局	・そうである。
山崎議長	・地元の方はわかっているということである。 ・2点あった。境バス停をまた利用していくということ。そこまで路線が延びるということである。それから、鍋田支所が閉館で、稻吉に変更する。この2点に関して併せてご審議いただきたい。 ・こちらの案を承認いただける方は挙手をお願いする。 (賛成者挙手) ・ありがとうございます。事務局で手続きを進めていただきたい。

4.議題

(4) チョイソコやとみの運行評価について

山崎議長	・議題4、チョイソコやとみの運行評価について、事務局から資料を使って説明をお願いする。
事務局 (村上)	○資料5説明 ・チョイソコやとみの運行評価について、令和7年10月1日からデマンド型交通「チョイソコやとみ」の運行を開始した。データの入手状況の関係で10月の1ヶ月間のデータに基づくものになるが、運行状況を表に示している。 ・10月末時点の会員登録者数は2,808人で、予約は合計で2,355回、1日あたりにすると約91回である。 ・本実証実験では、以下に示す数値指標を設定し、運行データや利用データ

	<p>タ等を毎月集計することによって、運行評価と本格導入に向けた改善内容を検討することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> まず1日あたりの乗車人数であるが、10月の実績は116人で、予測値を大幅に上回っている。 また、乗合率について1.56であり、予測値を上回っている。 4ページ、数値指標ではないが、利用状況が詳細にわかるデータ・グラフを載せている。 曜日別の平均予約件数について、平日では火曜日と金曜日の予約が多く、月曜日の予約が少ない傾向にある。また、土曜日も平日と同程度の予約が見られる。 時間帯別の平均予約件数について、8時台から10時台にかけて予約件数が多くなる傾向にあり、10時台が最大で約11件の予約がある。 10時台以降は徐々に予約件数が減少する傾向にあり、17時台が一番少なく約4件の予約になる。 6ページ、利用回数が最も多い停留所は「近鉄弥富駅南口」停留所で、上位10位の停留所は、公共施設、買い物、医療機関が多く、桜小学校に立地している停留所が多い。 生鮮館やまひこ弥富店など、元々きんちゃんバスのバス停が無かった停留所が上位に挙がっている。 住宅地停留所の中では「鮫ヶ地揚水機場」が上位10位に入っている。 次に予約不成立件数について、予約不成立件数とは、予約したかったけれど予約が取れず、チョイソコやとみの利用自体諦めざるを得なかつた件数のことである。 電話予約のみデータを集計した結果となるが、10月の予約不成立件数は116件で、予約を試みた回数のうち6.8%が予約不成立件数であり、約14回に1回のペースで予約不成立が発生している状況である。 7ページ、こちらの表には運賃収入や回数券の利用枚数を示している。 運賃収入の大半を回数券購入費が占めており、その理由として、運行開始とともにお得な回数券を購入する人が多かったことが考えられる。 回数券の利用が1,362枚、無料券が497枚となっている。 利用状況が詳細にわかるデータ・グラフの説明は以上であるが、こちらについても引き続きモニタリングし、運行改善に活用する。 8ページ、運行評価の一環として、チョイソコやとみの会員登録者に対しアンケート調査を実施し、デマンド交通の認知度や利用状況、移動手段や行動範囲の変化、運行に対する満足度、今後の利用意向やデマンド交通・実証実験全体に対する要望等を把握する。 1年間の実証実験であり、開始当初と終了間近の結果を比較するため、1回目を12月中、2回目を来年の7月頃に実施する予定である。 会員登録者アンケート調査の概要案を示した表をご覧いただきたい。このアンケート調査は会員登録者が在住している世帯に3カ月、2カ月に1通配布しているチョイソコ通信に調査票を同封して実施する。複数会員登録者がいる世帯でも1通しかチョイソコ通信が届かないため、その場
--	--

	<p>合はよく利用される方が代表して回答することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、会員登録者は高齢の方も多いため、家族や友人の代筆による回答も可能としている。 ・さらに、若年層の会員登録者も一定数いることから、WEB回答も可能としている。 ・調査項目について、実際のアンケート形式や選択肢については9ページ以降に示しているとおりであるが、説明は表に記載している項目をもとに説明する。 ・共通項目として、性別や年齢、職業、居住地、免許保有状況、車の利用有無などの基本属性を確認する。 ・また、きんちゃんバスやタクシーの利用有無と利用頻度を確認する。この項目はデマンド型交通の導入によるきんちゃんバスやタクシーへの影響を確認するための項目である。 ・そのほか、デマンド型交通の利用有無や公共交通全体に対する自由意見を共通項目として確認する。 ・デマンド型交通を利用する方のみに回答いただく項目について、利用目的、利用頻度、試しに利用してその後使わなくなった方にはその理由を確認する。 ・また、チョイソコやとみの満足度や改善すべきところ、チョイソコやとみを利用する前の移動手段、往復利用の有無と、片道利用の場合の利用しない方向の移動手段を確認する。 ・チョイソコやとみを利用する前の移動手段を回答いただく意図として、きんちゃんバスやタクシーからの転換の有無を確認する。 ・また、希望する時間に予約できなかった経験の有無やその頻度と、取りにくい時間帯、予約が取れなかった場合の対応等の予約不成立に関する項目を確認する。 ・その他、お得な回数券や飛島公共交通バスへの乗り継ぎの認知度を追加している。 ・デマンド型交通を利用したことが無い方のみの項目として、デマンド型交通を利用しない理由や、利用するために必要な改善点、今後の利用意向を確認する。 ・15ページ、その他として、停留所の追加・変更・廃止に関する報告である。 ・該当の停留所は一覧表のとおりで、位置図は16ページのとおりである。 ・以上で説明を終る。
山崎議長	<p>・チョイソコやとみの運行評価について、前半部分は運行の実績の報告で、中ほどにアンケート調査をこれからやるということで、調査内容の案が出されている。こちらのご意見をいただきたい。最後は停留所の追加・変更・廃止の報告である。ご意見、ご質問があればお願ひする。</p>
古勝委員 (弥富市福寿会 連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ・この間、40人ぐらいの会合があり、デマンド交通を使用した人が7人いた。運転手がやさしく、親切だったと好評価であった。 ・病院へ朝デマンド交通を利用していくのだが、診察が終わった後、予約が取れない。待ち時間が1時間、1時間半となる。時間帯に応じてタク

	シーを 1 台増やすとか、そういうことは考えていないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・お褒めの言葉に感謝する。 ・当日予約が取りづらくなっているという声はいろいろな方からいただいている。改善していかなければいけないということで、12月 1 日から一部エリアを見直して、南部で走っている車両と、北部東部で走っている車両は予約の比率に若干ばらつきがあるため、南部で走っている 3 号車を北部東部エリアまでエリア拡大することにより、そちらの予約件数を 3 号車で賄い、1 号車、2 号車の予約枠を広げられるのではないかということで試行錯誤しながら進めていきたい。 ・それでも対応ができないようであれば、アイシンやあんしんネット 21 と協議しながら違う手立てを考えていきたい。 ・増車については予算面もあり、この場で即答はできないが、まずやれる範囲内のところから手をつけさせていただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部でやっているチョイソコは、病院に行った帰りの予約が取りにくいということはどこでもあるようである。車を増やすという手もあるし、全体の面的なばらつきを考えて車の配車場所を考えることも検討しているということである。 ・デマンドと言っても、白ナンバーで運ぶ公共ライドシェアという、自治体がやる自家用有償運送の例であるが、一般の市民の方がドライバーになるので、病院に送っていくのはよいが、終わるまで待っていられないし、戻って迎えに行くのも手間がかかるという話で、帰りはタクシーを使ってもらうことをやっている事例もある。タクシーを使うとかなり料金が上がるるので、行政が少し負担する。ライドシェアで行くよりもお金はかかるが、行政の支援が入る事例もある。いろいろなやり方があるので、考えていただきたい。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・運行の評価は興味を持っている。こういう形で何ヵ月かに 1 回ずつ評価をされると思うが、気になるのは、海南病院やイオンは当初大丈夫かという危惧を持ってお話をしたことがあるが、5 ページを見ると回数が書いてある。何人乗って、何人降りたという絶対数で書いていただけると理解しやすい。 ・回数というのは 1 人ということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・予約件数である。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・1 人ということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1 人のケースもあれば乗合のケースもある。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコと、それまでのきんちゃんバスのときと、どの程度キャップがあるのか。きんちゃんバスのときはこれだけあったが、チョイソコになつたら成立の関係で人数が減ったとか、そういう分析もしていただけすると、どの程度これでよくなかったかわかると思う。 ・イオンもそうである。これを見るとイオンの回数が多い。イオンで降りる人、乗る人が今まできんちゃんバスでどうだったか、そういうものを比較して、地域としてどの程度増えているのか。利用者にとってデマンド交通の予約成立ができなければきんちゃんバスのほうがよかったということになる。その辺のことも分析のときに考えていただきたい。 ・タクシーの関係も気になっていた。近鉄タクシーはどうか。始まって 1

	カ月で、タクシーに影響はあったか。タクシーの予約が減ったとかあるのか。
伊藤委員 (名古屋近鉄タクシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・きんちゃんバスの影響はデータが取れていないのでわからないが、乗務員の肌感度でいけば、電話での予約が減った。朝、通院されるときに、10時台、11時台の予約は来るが、捌き切れないで、待たされている、来ないというのだが、昼からはタクシーが駅で待機している状態が続いている。 ・この分は取られた、この分は大丈夫という切り分けはできていない。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・トータル的にはそんなに影響はないのか。
伊藤委員 (名古屋近鉄タクシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・肌感覚では、電話で呼んでもらう件数は減った。それがきんちゃんバスのせいなのか、ただ単に利用者が少なくなったのかはわからない。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・それはわからないが、統計的にどれだけ減っているのかというのしかわからないだろう。若干減っているのか。
伊藤委員 (名古屋近鉄タクシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・若干減っている。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーときんちゃん・デマンドの関係、デマンドときんちゃんの関係など、利用の仕方がどう変わってくるのか。市民は足としてどれを主にやっていくのかということも実証実験の中で総合的に考えて、デマンドを減らしてきんちゃんバスを増やすということも出てくるかもしれない。そういうデータを取るのは非常に興味深いと思っている。よろしくお願ひしたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃることはもっともな話である。特に時間帯のばらつきを、バスはどうだったか、チョイソコはどうか、タクシーはどうかということを見て、使えるものを使っていくということを今後の改善に向けて考えることは大事だと思う。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーを利用してきた人はあまりチョイソコを利用しないと思う。チョイソコは歩かなければいけない。タクシーはドア・ツー・ドアである。お金持ちはそちらを選ぶのではないか。感想である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのあたりの分析は事務局に頑張っていただきたい。 ・ほかはいかがか。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・6ページ、不成立件数6.8というのは多いのか、少ないのか。当初の予想とはどうか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・アイシンさんの方で、他事例の数字からわかるはあるか。
大屋氏 (アイシン)	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくは無いが、多くは無いという表現になる。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りが予約しづらいということで、結果的に6.8%の中に入っている。肌感覚としては、行きはいいが、帰りはダメで、結果的に6.8%になっている。事務局のほうで検討案が出るが、11月は何%かといったときに、6.8%が高いのであればやらなければいけないし、平均から見たら少ないかもしれない。 ・毎月検討していただけるのであれば、こういう数字が多いのか、少ない

	<p>のか。近くの人からは1割ぐらい不成立という話も聞いた。自分も2、3回やったが、1回ずれたことがある。6.8%がどういう数字なのかしっかり押さえてもらい、半年で見直すということであるが、これがどういうことが判断するときに、この数字であればタクシーにするとか、増車をするとか考えなければいけない。次回2月まで会議がない。お願ひしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代別の会員登録者が出ているが、地区はわかるか。どこが一番困っているのか。東部はきんちゃんバスが全くくなってしまった。チョイソコを利用しているのか、チョイソコでもダメなのかなどもあると思う。きんちゃんバスを代替することがうまくいっているのか、きんちゃんバスを増やしたほうがいいのか。登録者別の利用者別があるとわかりやすくなるのではないか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域的な分析も必要ということである。 ・ほかはよろしいか。
後藤委員 (民生・児童委員協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・行きは取れるが、帰りが取れないということはもっともだと思うが、私が担当している1人暮らしの方は、病院は長くかかるのは当たり前ということで、帰りの分はあらかじめゆとりを持って予約している。利用される方に、もし時間が余ればその間に食事をするとか時間を考えて、帰りの予約を同時にされることを勧められてはどうか。
古勝委員 (弥富市福寿会連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ・歯医者は半日待つようなところで、いつ終わるか予想がつかない。デマンドタクシーは10時に予約すると、5分ぐらい前に待っていてほしいということである。
後藤委員 (民生・児童委員協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・最初説明を受けたときに、帰りのタクシーを呼ぶときは、いくら早くても30分後にしか到着しないと説明いただいた。ゆとりを持って早めに予約をする。
古勝委員 (弥富市福寿会連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ・見当のつく病院ならよい。大体1時間ぐらいなので、10時に終わるので、10時半に予約しようということができるかもしれない。
後藤委員 (民生・児童委員協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・そのように便利に使っているという意見をいただいた。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通はそういう面がある。利用者側である程度歩み寄っていく。東京や名古屋の地下鉄の東山線みたいに2、3分に1本電車が来るとか、そんな状況は地方都市ではありえないわけである。利用者がうまく使う。高齢の方はそれなりに時間に余裕のある方もいらっしゃる。 ・あとは施設側で時間を潰すことができるとありがたい。かつて高齢者の医療費がゼロになったときに病院がサロンの場になってしまったことがあった。それはそれでよくないが、病院と連携しながらうまくやれるといい。 ・病院がスポンサーになってくださっている。こんな課題があるということを医師会に知っていただくこともありだと思う。 ・両方の意見が出てきた。
児玉委員 (弥富市區長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・不成立の件数が時間帯でどれぐらいだったかがわかれれば、病院で1時間ぐらい待つとか、30分待つとか、次の予約をどのぐらいにするか。午後

	<p>は結構空いているようなので、昼頃まで待てば乗れるという話になるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析として時間帯別の不成立件数を出していただくとよい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 病院での不成立の時間帯の分析をしてほしいということである。 ほかにいかがか。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 有効走行率が低いというのはどういうことか。3ページ、有効走行率が予測率より下がっていると書いてあるが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> お客様を乗せて稼働していないということである。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> どのように捉えたらよいのか。1日当たりの乗車人員は予測値より多い。乗合率も予測値より高い。しかし、お客様を乗せて走っているのは少ないということはどのように考えたらいいのか。 効率から言うと、乗ってもらったほうがいいので、高いほうがいいはずである。 普通に考えると、半分ぐらい空バスで走っている。乗っている人が37人ということである。 乗っていない時間が多いためのことだが、これはどのように理解したらいいのか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな要因が関わってくる。チョイソコをやっているエリアの広さや、それに対する台数も関わってくる。 同じ有効走行率であっても、同乗している人がいるとか、乗合率が高いとここの数値は変わらなかつたりする。 1つ1つの数字、これは何を意味するのか整理してほしい。また、総合的に見なければいけないと思う。 アイシンさん、その辺はどうなのか。こういういろいろな指標が出ているが、社内の中でこの数値が高ければどうであるということが確立されているのか。あるいは、とにかくデータをざっと出して、こういう計算の仕方で出すとこうなっているというのをほかの事例も含めて示していくだけで、まだそこまで突っ込んだ評価ができるのか。そのあたりをお聞かせいただきたい。
大屋氏 (アイシン)	<ul style="list-style-type: none"> 弊社でここに出てる指標は数値としては持っているが、有効走行率はわからない。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> アイシンさんがチョイソコのシステムで自動に出てくるものではなく、事務局のほうで作った指標ということである。 そうすると、一度整理したほうがよい。
小野氏 (アイシン)	<ul style="list-style-type: none"> 補足であるが、11月は乗合率が非常に高くなっている。効率的に乗合されているという数字は傾向として見えている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ここに出てる数値は1.56であるが、これよりさらに高くなったということである。 ほかの事例を私も見てるが、1.5あればいいという例が多い。乗合率が高くなるということは効率的な運行ができるということになる。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 5ページの年代別の乗車数が出てるが、一般は200円で、75歳以上は100円である。そのランクで分けてもらうのはどうか。運賃をどうするかというときの基礎資料になると思う。100円の人、200円の人でどれだ

	けなのかというのも統計の資料として出していただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・指標値の提案があった。そういう集計もお願いしたい。 ・いろいろ運行データに関してご意見が出てきたが、アンケートはよろしいか。これからやるものである。 ・アンケートはすぐ確定しなければいけないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今月である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・修正する時間はないという感じか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・できればここで決めていただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・気になるところはないか。よろしいだろうか。 ・会員のご自宅にチョイソコ通信と一緒に1世帯に1部ずつ、なるべく使っている人に答えてもらう形でアンケートをするということである。 ・事務局のほうでもう一度ざっと見て、修正があれば事務局にお任せしたい。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・回数券、13ページを見ると、アンケートに現在ある100円券を買ったとかあるが、今年の3月28日に私の意見として、名古屋市を例に引いて、敬老パスを出したらどうかという話を事務局に意見を出した。名古屋市は5000円で、しかも回数が730回、365日を2倍した数である。もっと貧しい人は3000円とか1000円である。 ・敬老パスを8000円ぐらいでやったらどうかと意見を出した。回数券以外に敬老パスなど、そういうものもアンケートに入らないか。そういうニーズはないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコについてのものなので、そこについてはサブスクや一日乗車券のご意見は地域説明会でもいただいている。そういうご意見は自由記載欄にご記入いただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・これで進めていただきたい。引き続きデータを取り、データのまとめ方、提示の仕方は対応できるところは対応していただきたい。

4.議題

(5) 弥富市地域公共交通計画の見直しについて

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・協議事項であるが、弥富市の地域公共交通計画の見直しについて、資料6、7の説明をお願いする。
事務局 (村上)	<p>○資料6、資料7、参考資料1説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥富市地域公共交通計画の見直しについて、前回の協議会での皆さんからの意見を踏まえ、基本理念や基本方針、基本方針に基づく将来の公共交通網イメージ、基本方針に基づく目標と指標を修正した。 ・また、目標を達成するために行う事業及び事業主体・計画期間については、以前の協議会で示した一覧表をもとに関係事業者と調整した結果を踏まえて、図やイラスト等を活用して整理した。 ・具体的な説明は、前回の協議会からの修正箇所を横並びで整理した資料7で説明させていただくが、時間の都合上、修正した箇所や新規で整理した実施事業を中心に抜粋しながら説明させていただく。ご了承いただきたい。 ・委員の皆さんからいただいた意見とその対応結果については参考資料1に示している。併せてご確認いただきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料7をご覧いただきたい。 ・1ページ目の計画期間について、いただいた意見を踏まえ、活性化の要素を含めた文言に修正した。 ・2ページ、1ページと同様に、文言を修正した。 ・3ページ、公共交通の区分について、地域間幹線を地域幹線、地域内交通を地域交通に表現を修正した。 ・また、地域交通について、現在北部ルートが運行している地域は上位計画で位置づけられている拠点が多数立地する地域で、日中の通院や買い物など、日常生活で欠かせない移動が多いため、重点運行区域として位置づけ、デマンド型交通やきんちゃんバスによって移動を支えることとする。 ・また、きんちゃんバスとデマンド型交通、タクシーの役割の違いをより明確にした表現に修正した。 ・その他交通について、前回の協議会での意見を踏まえ、木曽岬自主運行バスや飛島乗合タクシーを追加した。 ・愛西市巡回バスの海南病院ルートは、愛西市と調整したが、愛西市側の検討・準備が整っておらず、12月の協議会までに両者で合議することができなかつたため、計画に反映していない。 ・4ページ、先ほど説明した内容に加え、都市間幹線との乗継イメージがわかりやすいよう、現在乗り継ぎ可能なポイントをベースに乗継ポイントを追加した。 ・5ページは変更箇所がないため、割愛する。 ・6ページ、評価指標の設定についてである。 ・目標①について、公共交通の利用者数としていたところを、きんちゃんバスとデマンド型交通の利用者数のそれぞれに分けて設定した。 ・また、10月1カ月のデータを参考に基準値を設定し、目標値は基準値より向上にしている。現時点では10月のみのデータをもとにした基準値であるが、1月までの実績を継続して確認したうえで今後修正する予定である。 ・タクシーの利用状況を図る指標として、福祉タクシー券の利用枚数を追加した。 ・前回の協議会でタクシーの日報データを活用して利用者数を把握する意見もあったが、システム上のデータ出力が現時点で難しいこと、計画策定後の継続的なモニタリングの難易度が高いことから、福祉タクシー券の利用枚数を指標として設定した。 ・9ページ、目標④の評価指標について、前回の協議会での意見を踏まえ、協議会の開催回数を指標から削除し、公共交通へ無関心な人の割合の代わりに、公共交通を利用している人の割合を指標として設定した。 ・10ページ、確認指標として、もともと目標①の評価指標として設定していた公共交通の人口カバー率について、協議会での意見を踏まえ、確認指標への設定に変更した。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・11 ページは変更箇所がないため、説明を割愛させていただく。 ・12 ページ、ここからは具体的な実施事業の内容で、前回の協議会では示してない形式であるので、比較はない。また、時間の都合上、現行計画から大きく変更した事業や新規の事業を中心に抜粋ながら説明させていただく。 ・各ページにまだ写真やイラスト等が入っていないものがあるが、今後追加していく予定である。 ・16 ページ、地域特性や利用特性に応じた運行改善について、各公共交通の役割や運行内容等を記載しているが、特にタクシーの役割や今後の方針を明示している。 ・18 ページ、現在、本格導入を見据え実証実験運行をしているデマンド型交通について、本格導入に向けた事業内容や本格導入後の事業内容を記載している。特に、フィーダー系統としての位置づけを見据え、本格導入する際には鉄道や周辺市町村で運行されている公共交通への接続を検討する。 ・19 ページ、JR・名鉄弥富駅北口駅前広場の整備による乗り継ぎ環境の向上について、北口駅前広場の整備が令和12年に完成予定であるため、令和12年に向けてきんちゃんバスのバス停設置と乗り入れを検討するとともに、快適な待ち合い環境を形成するなど、乗り継ぎ環境の向上を図る。 ・24 ページ、タクシーと福祉分野等との連携について、継続してタクシー料金助成事業を実施しつつ、福祉以外の買い物や教育、観光、医療、物流など様々な分野との連携可能性について、全国的な事例等を確認しながら検討する。 ・26 ページ、スクールバスとの連携について、令和10年4月の弥富市立よつば小学校の開校にあたってスクールバスの導入を検討しており、きんちゃんバスやデマンド型交通との連携可能性について、全国的な動向に関する情報収集をしつつ、教育委員会や交通事業者と調整・検討する。 ・28 ページ、ここから基本方針2に対応する実施事業である。 ・定期券、回数券等の販売について、回数券についてはデマンド型交通やタクシーなどの市内の全ての公共交通で共通して使える共通券の検討を推進する。 ・また、デマンド型交通において、お得な1日乗車券の販売や定額利用、いわゆるサブスク利用の導入を検討する。 ・下の高齢者や障害者等への料金負担軽減策の調査・研究について、現在実施しているゴールドバスやシルバーパス等の事業は継続し、きんちゃんバスとデマンド型交通のそれぞれが提供するサービス水準の違いも鑑みつつ、全国的な好事例や効果等を調査しながら、高齢者における新たな負担軽減策の導入を検討する。 ・34 ページ、ここから基本方針3に対応した実施事業である。 ・講演会や講習会の開催について、講演会や講習会を通し、市内を運行する公共交通の必要性などをより多くの方が知り、市内の公共交通をみんなで支える環境を醸成することで利用促進を図る。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・35 ページ、公共交通に関する勉強会の開催について、公共交通に関する勉強会を開催し市内の公共交通の現状・問題を理解するとともに、今後の公共交通のあり方を行政と市民が一緒に考えることで、地域公共交通を自分たちで創り、守り、育てていく環境を醸成する。 ・実施事業についての説明は以上となる。 ・37 ページ、計画策定後の進め方を示している。 ・事業の実施にあたっては、公共交通事業者、市、行政等の関係者が協働・連携し、計画の立案・計画の実施・計画の評価・計画の改善を繰り返す P D C A サイクルの考えに基づき、地域公共交通を確保・維持・改善していくものとする。 ・また、各種データや事業進捗状況等をもとに評価するとともに、目標の達成状況や上位計画の改定内容を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことで推進していく。 ・基本的な 1 年間のスケジュールは 38 ページのとおりである。 ・これで資料 7 の説明を終わる。 <ul style="list-style-type: none"> ・最後に資料 6 に戻り、計画策定までの今後のスケジュールを説明する。 ・本日皆さんに意見をいただきまして、本協議会で頂いた意見に基づく修正や事務局内での全体的な内容の再確認、最終的な調整を行い、パブリックコメント実施に向けた計画案を作成する。 ・その後、12 月 22 日から 1 月 23 日までの間にパブリックコメントを実施し、2 月末に開催予定の協議会で最終審議を行う。 ・協議会での最終審議後に運輸支局へ変更認定申請を進達し、3 月下旬に国の認定をいただく予定となる。 ・以上で説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通計画の見直しに関して、ご意見、ご質問をいただきたい。
小林委員 (弥富市女性の会)	<ul style="list-style-type: none"> ・28 ページ、回数券について、デマンド型交通やタクシーなどの市内すべての公共交通で共通して使えるのは大賛成である。これに加えて、免許証を返納した方にはタクシー券をいただけるが、これを使って、回数券も使って、デマンドに乗れなかった帰りをこれで補うようにすれば、利用者にとっては便利であると思う。ぜひ検討していただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・何とか実現できるよう事務局には頑張っていただきたい。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・7 ページ、「バスロケーションシステムの導入を目指し、よりわかりやすい、利用しやすい公共交通環境を構築します」とあるが、バスの発着、到着をお知らせするものをつけるということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・発着、到着ではなく、現在バスがどこを走っているかがわかる仕組みのものである。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう仕組みもお金がかかる。 ・180 便あったものがチョイソコ導入によって 65 便に減っている。どこを走っているというのは要るのか。限られた資源ということがたくさん出ている。こういうところにお金を使わないほうがよいのではないか。 ・チョイソコをもう 1 台増やしてほしいという意見もある。チョイソコ 1

	<p>台 1700 万と高い。そういうところにはお金がいるが、なるべく省力的にして、そういうところにはお金をかけなくていいと思う。北部は 4 便しかないのだから、やってもあまり意味がないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 ページ、勉強会は市民に対してやるものか。公共交通に関する勉強会を 3 回以上、これは市民に講演会みたいなものをやるものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これから検討させていただく。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・これからというのは、イメージとしてはどういうものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民の方に公共交通に关心を持つていただくということでもある。知らないことが今回参加の皆さんの中でもあると思うので、広く市民の方に公共交通を理解していただきながら、公共交通を使いやすいような環境にしていくにはということである。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会のイメージが湧かない。例えば教育支援センターの講堂などに集めて全員でやるのか、地区を回ってやるのか。どういう形をイメージしているのかわからない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全体だと講演会というイメージだと思う。勉強会とは異なるものと考えている。 ・勉強会はあくまでも広報等で公共交通に关心のある方にお声をかけさせていただき、集まった方で協議会と協議会の間ぐらいの間隔で、少人数で普段疑問に思っていることや関心のあることについて、より深く理解していただこうという場である。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の意見を聞くということか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・バスロケの話について事務局からお願いする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の方から、バスが来ないという問い合わせをよくいただく。バスがどこに走っているかは私どもでも見当がつかない。そういう意味で市民サービスの一環になるのではないかという観点からバスロケを導入してはどうかと考えている。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・それはわかるが、限られた資源で、予算がある中でやるわけである。削ってもいいような気がする。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・運行事業者が既にバスロケのシステムを導入していると安価にできる。三重交通は入れているのか。
中川委員 (三重交通)	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社ではバスロケーションシステムは導入している。導入するまでは、バスが来ないが、今どの辺かという問い合わせが非常に多かった。無線がついているので、その都度無線で確認ができればお客様に返答していた。導入をしてからの問い合わせは非常に減った。 ・お客様にとっても、バスが来ないというストレスから解放されるという意味では、非常に有効なシステムだと認識している。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・米澤委員は 1 日 4 便しかないのにとおっしゃったが、4 便しかないからこそ、バスが行ってしまったのか、まだこれから来るのか知りたいところだと思う。10 分に 1 本来れば、1 本逃してももうすぐ待てばもう 1 本来る。 ・費用面をしっかり考えてということだと思う。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコを 1 台増やしたほうがよいと思う。

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの方はいかがか。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・9ページ、公共交通を利用している人の割合を、基準値が令和6年度8%で、令和12年で10%ということであるが、例えば50%にして、評価を未達成でも補助金が少なくなるわけではないということを確認したが、10%という根拠はあまりにも低すぎないか。公共交通はどこを見てもなるべく多くの市民に使ってもらいたいという目標でやっている。公共交通活性化協議会は最初からそういう形であった。最初の議事録を見ると、1割しか使っていないということで市長がびっくりしていた。今もそれが全然変わっていない。タクシー券を共通にするとか、いろいろなことをやった挙句、なおかついろいろな人に使ってもらえる形にしていかなければいけない。1割という根拠はないと思う。 ・前のアンケートでは、今は乗らないが、将来免許を返納したら乗らなければいけないと思う、こういうことを改善すれば乗ると5割ぐらい人が言っている。 ・5割という目標はいい加減な数字ではなくて、改善されたら乗りたいという人が5割ぐらいいるということなので、10%というのは努力目標としては小さすぎるのでもう少し上げてほしい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し目標を高くしてほしいということであるが、事務局、いかがか。 ・これはあくまでもアンケートの回答から出した割合ということか。 ・私の肌感覚であるが、今までいろいろなところで調査をやって、実際に乗るかどうかという調査をやると、それを改善したからと言って、本当に乗るかというと、乗ると言った人の1割も行かないぐらいである。5割の人が改善されれば乗ると言ったから5割ではなく、そのさらに1割しか乗らない感覚である。これも根拠のある数字ではないが、肌感覚としてそうである。 ・10%とするのならうまく説明できればよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まずはここをクリアできなければ話にならないと思う。いきなり50という大きな花火を上げるのもよいが、まずはここをクリアできる形で取り組んでいきたい。根拠も示させていただくのでご理解いただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかはよろしいか。
原田委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・12ページ以降に実施事業の一覧が書いてあるが、関係主体のところに実施主体、連携主体を整理いただいているが、市民という記載が少ない。 ・例えば1) の①地域特性や利用特性に応じた運行改善、きんちゃんバスやデマンド交通の改善には当然市民と連携して協議しながら改善を図っていくものではある。実施主体ではないかもしれないが、連携主体として市民を書いたほうがよいのではないか。 ・ここだけでなく、ほかにも関係してくるところがあると思うので、なるべく幅広に記載いただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今や公共交通は市民協働でやっていかなければいけない。市民に活躍してもらう、市民と連携するという部分が欠けていた。重要なご指摘である。
楠委員 (愛知県交通運輸産業労働組合)	<ul style="list-style-type: none"> ・10ページ、7-6-2、指標①公共交通利用者1人あたりの運行経費、1372円ということで、令和6年度というのはデマンド交通の人員も入っているということか。

協議会)	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 入っていない。バスだけである。
楠委員 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会)	<ul style="list-style-type: none"> 右のほうにはデマンド型交通とある。きんちゃんバスだけだと思う。 令和6年3月の公共交通会議でデマンド交通ときんちゃんバス全ルートの利用者1人あたりの運行経費が参考資料で出されていると思う。こちらも今後掲示していただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> よろしいだろうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今後というのはどういうことか。
楠委員 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会)	<ul style="list-style-type: none"> 多分出ていたと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 確認指標として上がっているので、きんちゃんバスはきんちゃんバス、デマンド交通はデマンド交通という形になる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度に実証実験は何があったか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年はない。令和5年度に半年間デマンドをやっている。令和6年度の協議会で報告している。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の1人1,372円は実証実験を含んでおらず、通常の運行でかかった費用ということである。 ほかにいかがか。
野田委員 (名古屋タクシーアクセス協会)	<ul style="list-style-type: none"> 3ページ、地域交通の中にタクシーを位置づけていただき感謝する。 下から2つ目、「タクシーは自宅を起終点とした」という記載があるが、利用が多いのは自宅だと思うが、限定しないほうがよい。「自宅等」の表現がよいのではないか。 料金の助成という話の中にタクシーの料金の一部負担という話も今後検討いただけるということで、タクシーの有効活用という面ではタクシーにとってはありがたい話である。感謝する。実現に向けて検討いただきたい。 16ページ、輸送量と移動距離の関係性で、それぞれ交通機関が書かれているが、タクシーの位置はもう少し短距離寄りではないかと思う。感覚的な問題であるが、もう少し短距離寄りに位置をずらすとよいのではないか。 計画の見直し案について、スケジュールの説明の中で、今日の協議が終わった後にパブコメの準備をされるということであるが、これは最終的な見直し案の提示ということでよい。これは全体版の見直し案なのか、それとも一部なのかがよく理解できなかった。パブコメに出される場合は全体版の見直しの案を出されると思う。確認したい。もし全体版でなければ、全体版をご提示いただいた上で、そこでまた意見がないか確認いただき、パブコメの手続きに入っていたらうのがよいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> パブコメとしては全体版として行う。令和8年3月をもって現計画が切れるので、新たに5年間の計画期間の計画を策定していく形になる。そちらの計画でパブコメは行う。 今までこの計画案について皆さんにご協議いただく中で修正をしてきて

	いるところがあったので、こういった形の部分的な表現になっている。パブコメとしては全体で行う形で準備を進める。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・この協議会で最終的に全体がOKとここで審議されて、協議会としての案が固まって、それがパブコメに出ていくというイメージということか。 ・部分、部分で協議をしてきて、このままパブコメをやってしまうのかということどころことではないかと思う。 ・パブコメに諮るのは一応すべての項目に関してここで協議したものということではある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に入ってから、順番に計画案としてご協議いただき、皆さんの意見を踏まえ、修正を繰り返してきた段階である。それを毎回協議会の場でご確認いただきながら、改めてご意見があった場合、その修正を反映して今日を迎えたという認識である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は審議事項にはなっていないので審議はしない。ここまでこの計画の案としてパブコメに行っていいのかということまではここでは審議をしないということになっている。 ・ほかの計画はパブコメをやるときはどうなのか。こういう協議会できちんと最終的にこの案をパブコメで意見をもらうということはやるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな形のものでパブコメに出す。当然パブコメでも意見が出るので、それをまた修正しないといけない。最終的には年度末に意見を反映させたものが計画となる。最後はそこの場で委員さんにお認めをいただく流れになる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう形でよいか。
垣内委員 (名古屋港西部臨海地帯企業連絡協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富市が企画されたバスロケーションシステムは利用者がより利用しやすくするためのものだと私は思う。全体の計画の中で事務局が計画されて、より市民に使いやすいバスにしようという案だと思う。 ・そのものに金を使わずにということではなく、それは全体の中で経費の削減をしながら、より安く、使いやすいようにするというのが筋ではないかと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今のバスロケの話もあるが、ここでいろいろ話題に出たものがある中で、この案で、今日のご意見を反映できるところは反映して修正してパブコメをやるという流れである。よろしいか。この協議会で確定した案ではないが、事務局が皆さんからいただいた意見を踏まえて、パブコメをやり、市民からいただいた意見を踏まえて最後策定という流れである。よろしいか。 ・タクシーのご指摘はよいか。16ページの図でタクシーをもう少し短距離に寄せたほうがいいという話などがあったが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・調整し、修正する。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・17ページのきんちゃんバスの運行について、「また限られた資源やマンパワーの中で市民の生活行動における重要な移動手段として確保・維持するため、利用状況や収支状況をもとに受益者負担の考えを踏まえ、必要に応じて運賃の見直しを検討します」とあるが、限られた資源というのは予算と読み替えてもよいのか。限られた資源というのが何のことかよくわからない。予算ということか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・資金である。
米澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資源と読んでしまった。資金ということは予算である。

(公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・そうすると、これをやるには、受益者負担の考えを踏まえというのもあると思う。ただ、それには運行方式を変えて節約できることがないかを見直すのが先ではないか。まずは今の運行方式をどう変えようかをやる必要があるのではないか。 ・前回も申し上げたように、自主運行をやれば安くなるのではないか。 ・参考資料 1 の 4 ページ、②きんちゃんバスの運行のところ、下の表に従前は 108 便で、改定後は 65 便になっているということは、その資金は今まで 1 億円だった。これで減ったので、きんちゃんバスの運行費はこの前 5000 万ぐらいだとお聞きしたが、そんなものでよいのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・減便したときの金額か。10月1日以降のダイヤで行くとそれぐらいである。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・65 便で 5,000 万。1 億として、残りの 5,000 万がチョイソコのお金、そんなものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような配分に近い。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた資金は予算があって、市の全体の中で決めるわけである。1 億で、これ以上はダメと財政から言われているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・財政で行くのであれば、他の事業との関係もあるので、その範囲内である。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・180 便が 65 便になるということで 3 分の 1 になっても 5,000 万となると半分ぐらいは要るということである。自主運行すればもっと安くなるのではないか。 ・蟹江町で聞いたのだが、蟹江町は 77 便で 1,600 万である。やろうと思うと運転手をどうするかが一番ネックだと思う。愛西市は、運行専門の会社に委託しているようである。バスは自前である。1 台 1,000 万と言っていた。 ・愛西市のものを使おうとすると、2 台で 5,000 万かかるものが、2,000 万で済むわけである。愛西市は運転手の委託料は 1 台 1,000 万である。車は自前である。そうすると 2,000 万になる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から米澤委員が言われている経費を節減するためということもあって、自家用車を活用して無料でやるということか。とにかくいろいろなやり方があると思う。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・運行方針についても、これからどういう方法がいいのか。私は今たまたま自主運行と言ったが、そういうものの経済的なものを含めて検討する必要があるのではないか。 ・そういう意味で、「また、利用状況や収支状況をもとに、受益者負担の考えを踏まえ」、その前に、「運行方針を見直すとともに」という一言を入れて検討すべきではないか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・そこを見直すことを検討するかどうかというところも事務局で判断していただいて、それをしないのであれば、この計画に書くと紛らわしいことになるので、事務局で検討の上ということでよいと思う。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・私はこれを書くべきだと思っている。皆さんのご意見はどうか。 ・検討するだけで、検討した結果、ダメでしたでもいいと思う。そういう文言を入れる必要があるのではないか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・後で話をしましょう。

	<ul style="list-style-type: none"> もともと福祉交通だったとき、市役所の白ナンバーの車を使って無料で運行していた。それを公共交通にしようということで有料のバスを走らせていく。公共交通である。それがまた無料にしようというと時代の逆行になてしまふ。そこは頭に置いていただきたい。 市の内政で運行するとなると非常にコストがかかっていく話である。そういうことも考えなければいけない。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 他市ではそういうことをやっている。研究する価値はあると思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者も今人手不足のところはあるが、第一に考えるのは運輸局のもとできちんと安全を第一にやっていくことがある。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 私が言うのは、そういう市町がある以上、検討の中に入れてもよいのではないか。 自主運行になると運賃はタダなので、収受の手間がかからない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> そういったことも含め、勉強会の場において皆さんで勉強していきたい。この書きぶりについてはまずはこのままでいきたいと思っている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ほかにはよろしいだろうか。

4.議題

(6) その他

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (村上)	<ul style="list-style-type: none"> 特にない。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ほかの方からはあるか。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料2の利用者実態調査結果について、全ルートの合計が、令和7年度の10月分は2,916となっている。令和6年は7,000ある。2,916というのはきんちゃんバスの話か。 単純に考えると、令和6年10月には7,000人乗っていた。今回デマンドをやってきんちゃんバスを減らしたが、2,916人乗っている。 チョイソコの実証実験で、1日当たりの人数が116人である。ということは、116人×26日で3,000である。足すと、1年前は7,000人が公共交通を利用していた。1年たって、きんちゃんバスをやめてチョイソコにしたが、結果的に10月だけ見ると1,000人少ないことになる。 116人という数字は目標値よりも多い。資料5の2ページで、チョイソコの1日当たりの実績は116人で、予測値が73人である。73人×26日だともっと乖離してしまう。 なるべく多くの人に利用してもらおうという話から、ずいぶん隔たりができてしまっているのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 確かに予測値としては低い数値である。大量輸送に向いているのがきんちゃんバスであるという認識もある。 当初予定していた車両のサイズ感もコンパクトになった部分もある。 引き続きバスを残したというのは、バス利用者の多い時間帯についてはバスがカバーするところで思っていた。逆に若干バスの利用が少なかつたかなという数字で事務局としては予測しているところである。

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> サービスが変わると、利用者が定着するまで時間がかかる。チョイソコの10月だけを見てではなく、チョイソコは増える可能性がある。路線バスも一気に変わって定着していない状況である。状況を今後しっかりとモニタリングしていくからそういう話をするとよいと思う。まだ10月のデータしかない。この後、半年ぐらい見守っていき、データがどうなっていくか、去年と比べてどうかをしっかり見ていく必要があると思う。
田口委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 最初に質問したように、そのことによってバス停を増やすことが途中でできるのであれば、次回の会議まで待てないかもしれません。 最初だからということで、先生の言わることはよくわかるが、どうなったらどうなのか。僕らの肌感覚では、きんちゃんバスになって乗れなくなった人が多い。きんちゃんバスのルートに合わせるか、バス停を変えることによってそれが変わりそうな気もする。現場の声を拾い、増やすなどしてはどうか。2月のときまで言えないというわけではないのであれば、途中で言えば教えていただけるか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> あまり細かくいじると、それはそれで定着しない。そこは気をつけなければいけない。 市民から要望があれば何でもかんでも聞いてしまうと使いにくいものになってしまう。そのあたりをきちんと事務局の中で判断されていくと思う。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度の当初にこういうパンフレットで愛知運輸支局の人に説明しているが、この中に、住民代表についてどういうことをしたらいいかということが例に書いてある。 これを見ると、地域の視点から公共交通に関する課題や必要な取り組みを提案とある。私もいくつか提案しているが、その提案されたものがどう扱われるのか。この協議会で議論すべきではないか。その点はどう思われるか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ここで提案していただき、今回ちゃんと文章にしましょとちゃんと意見を出してもらったりした。ただ、この場ですべてを議論する時間はない。事務局で検討いただき、変更が必要だと、対応していこうというものはここに議題として上がってくる。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> それを事務局だけが判断するのか。これは協議会なので、事務局が整理するのはわかるが、その問題点をここで挙げて、皆さんで提案するわけである。そういうことを議題として捉えるかどうかは事務局だけでなく、こういうところで、または別の場で調整する場を設けるとか、そのようにやらないと、せっかく提案して、事務局が出された議題に限るのではなく、それ以外のものも提案することがあると思う。提案していいと言われているのに、どうすればいいのか。その扱いについて国交省はどうか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 支局に聞かれても困ると思う。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> この協議会の性格、役割というものがあると思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 市町によって協議会のあり方はそれぞれ違う。そこは支局が決めることではなく、どういう会議にするかは各市町で決めている。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> それは違うと思う。法定協議会は法の中で決められた協議会である。その中で提案してもいいと言っているわけである。議題と関係ないものを提案することもある。それは一切ダメという話では、協議会の趣旨から逸脱していると思う。

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> この話はこの協議会の中で続けるべきではないと思う。支局さんに聞くことでもない。弥富市としてこの会をどういう会にするかという方針があるはずである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> その部分についても、勉強会という場で皆さんの意見を聞き、勉強会の中で議題として上げていくべきなのか、協議していくべきなのか、協議会の場に上げるかどうかも。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 話を逸らしてはいけない。今協議会の中での話をしている。それを一般的な勉強会のところに持ってきてても話がずれていく。 私は協議会の説明として、こういうものは事務局から、協議会のあり方として提案があるということも説明しているわけだから、それを広く一般住民のという話は筋が違う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市の方針としてはそういった形で議案として上げていきたいと考えている。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 市の方針を聞いているのではない。この協議会の性格を聞いている。
古勝委員 (弥富市福寿会連合会)	<ul style="list-style-type: none"> これは市が主催でやっているものである。市の方針でいいのではないか。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 市の主催よりも、これは法律で定められたものだから、協議会で協議するわけである。市から出てくるものを検討するわけではなく、協議をして、この協議会で決めるわけである。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 市民の委員を入れてやっているようなほかの分野の会議体はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画など、いろいろな会議がある。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> そちらも同じような進め方のはずである。ここで提案したものがその場で議案になるわけではない。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> それはわかるが、議案を一方的に事務局でやるのではなく、ここからの調整も加味していただきたい。その辺のあり方としてはどうなのか。これは法定協議会である。普通の協議会と性格が違うと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> やり方はそれぞれいろいろなやり方がある。
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> 国交省の方針をもとにやっているわけである。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ここで会議は終わりたい。事務局にお戻しする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会などの場でも協議しながら皆さんのご意見としてどう取り扱っていくかも踏まえていきたいと思っている。

5. 閉会

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> 山崎先生、ありがとうございました。 以上で、令和7年度第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を終らせていただきます。 次回の協議会は来年2月24日、13時30分から予定している。資料等については事前配布させていただきます。 本日はありがとうございました。
	以上